

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577200920		
法人名	有限会社 龍 泉		
事業所名	グループホーム 秀東館 虹		
所在地	山口県岩国市周東町下久原1733番地		
自己評価作成日	平成25年10月23日	評価結果市町受理日	平成26年5月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の建物は現代建築による高い天井や天窓からの自然な光や風を取り込むことができ、解放感に溢れ明るく心が和む造りとなっています。利用者の状態は日々変動がありますが、できるだけ優しく寄り添い、秀東館の理念でもある現代社会が忘れかけている家族の温かさを大切にして、ひとつ屋根の下で違った個性を持った人々が集まり生活をする。利用者は私達の父であり母である。また利用者同士は兄弟姉妹でもある。私達が目指す“大家族主義”の理念を基に共同生活住居(グループホーム)において、食事・排泄・入浴等の介護や日常生活上のお世話をを行い、能力に応じ自立した生活(自己決定)ができるよう取り組んでいます。ご家族や地域住民の方が自由に出入りできるように施設内外は施錠せずに解放された体制作りをしています。地域に密着した開かれた施設として、気軽に立ち寄って頂き密着した関わりが持てるよう一層努めていきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎月、地域向けホーム便りを発行され、事業所の様子や行事を知らせておられる他、事業所の火災時避難訓練への参加の呼びかけをされ、地域の人の参加を得て、災害時の地域との協力体制につなげておられます。地域の清掃活動や行事に参加されるなど事業所自体が地域の一員として交流されています。法人の栄養士によるバランスに配慮した献立で、三食とも事業所で食事づくりをしておられます。利用者は職員と一緒に食材の購入に行かれ、下ごしらえ、調理、味見、配膳、下膳、食器洗いなど利用者の出来ることを職員と一緒にされ、利用者の誕生日には利用者の好みの献立を取り入れられたり、外食をされるなど、食事が楽しみなものになるように取り組まれています。近隣の散歩やスーパーでの買い物、毎月1回外出レクリエーションを企画され、季節の花見やミカン狩り、天神祭、初詣、釣り、鶴やイルミネーションの見学など、一人ひとりの希望にそって、戸外に出かけられるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時の研修において施設の理念である“大家族主義”の意義を理解し、利用者は私達の父であり母であるを基に、自分の家族として対応するように取り組んでいる	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念づくり、事業所内に掲示し、ユニット会議やミーティングで話し合い、理念を共有して、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の行事では地域へ向けて情報を発信し、例えば火災避難訓練等でも地域住民の参加を頂いている。また地区の清掃では施設より参加をして交流がもてるよう取り組んでいる	毎月1回、地域向けホーム便りを発行し、自治会(7班)に回覧している。事業所の行事(花火大会、花見、地域敬老会、運動会、クリスマス会、火災避難訓練)への参加を呼びかけ、地域の人や子供たちの参加があり、利用者と交流している。職員は地域の清掃活動に参加している。地域のボランティア(傾聴、習字、演芸等)の訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用して施設内での事例を紹介したり、施設で行った研修を紹介して、意見交換をしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員に向けて自己評価及び外部評価を理解できるように説明して、評価を活かして改善できるように取り組んでいる	管理者は、全職員に自己評価及び外部評価の意義について説明して、管理者が作成した自己評価について職員の意見を聞いている。評価を活かして改善に取り組むまでには至っていない。	・評価項目の理解と評価の活用
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において一人ひとりが発言する機会を作り、意見交換をしている。改善点の指摘があれば早めに対応するように心がけている	2ヶ月に1回開催し、事業所の状況、活動報告、行事案内、月例会議報告、職員研修、事故報告等をして、意見交換している。権利擁護事業に関わる職員の研修の実施や避難訓練時のスロープの検討などの意見があり、サービスの向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で市町へ挙げてほしい意見を述べ意見交換を行い、また岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会を設立し、定期的な情報交換の場を作り、協力関係が築けるように取り組んでいる	市担当者とは運営推進会議の他、日頃から電話や出向いて、意見交換をして、協力関係を築くように取り組んでいる。岩国市地域密着型サービス事業所連絡協議会の総会やケアマネ連絡協議会に参加し、事例検討や権利擁護に関する制度などを学び、情報交換をしている。地域包括支援センターと、相談して助言を得るなど日ごろから連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の言動を制限する行為についてお互いに確認し合いながら、身体拘束をしない支援の取り組みをしている	マニュアルがあり、職員は内部研修で学び、理解しており、スピーチロックなど職員同士でお互いに確認し合い、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について学ぶ機会を作り、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中で権利擁護の活用されている方もいらっしゃるの、個々の必要性について関係者と定期的に話し合う機会を作っている		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には理解していただけるよう時間をかけて説明を行い、納得された上で契約を交わしている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの相談には随時応じ、職員間において改善点の周知徹底を図り、苦情の受付体制は目に見える場所に提示している。苦情においても会議を開き、改善できるように話し合いをしている	苦情の受付体制や処理手続きを定め周知している。面会時や電話、運営推進会議時、年1回の家族会等で家族からの要望や意見を聞いている。職員の名前がわからないという意見があり、事務所入り口に写真入りで掲示している他、部屋のほこりが気になるなどの意見もあり、改善に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に月一度の会議において職員の提案を聞く機会を作っており、運営に反映できる体制を作っている	管理者は月1回の全体会議やユニット会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員の意見や要望は月1回の法人幹部職員会議で報告し、運営に反映させるように取り組んでいる。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況や努力・実績を把握して給与水準に活かし、職場環境や条件の整備に努めている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ7施設の幹部職員を招集し、施設の課題や問題解決に向けた会議を毎月1回開催し、全職員に啓蒙活動も含め周知徹底するよう努めている	外部研修は情報を提供し、参加の機会を提供しているが、受講者はいない。岩国市ケアマネ連絡協議会の認知症ケアの勉強会に参加し、復命して、共有している。毎月1回の法人内幹部職員研修の内容を中心に、その都度必要に応じて内部研修を行っている。新人職員は法人研修を受講し、報告書を提出している。	・研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会を通じて、同業者との交流を図り、意見交換や情報の共有できる取り組みをしている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていることや、不安に思っていることがキャッチできるよう寄り添いの介護を基本として、関係作りに努めている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っていることを探りながら、協議し合ってお互いが納得した支援ができるよう努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況に応じた支援を見極められるように関わりを持ち、対応できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の経験や得意な事が活かせる活動を取り入れ、存在価値が見いだせるよう努めている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報の提供しながら、家族の協力を得られるよう話をし、共に本人を支えていけるよう関係作りに努めている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会等も自由にしていただき、馴染みの関係が継続できるよう努めている	友人や知人、親せきの人の来訪がある他、出張理美容の利用、天神祭や初詣に出かけたり、家族の協力を得ての墓参りや外食、外出、正月や盆前の外泊など馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士は兄弟姉妹であるという理念を基に、利用者同士が関わり合え、時には職員が間に入り孤立しないよう努めている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてフォロー、相談に応じられるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動から思いが汲み取れるよう観察を行い、職員間の会議において情報交換しながら本人本位に検討している	日々の関わりの中での会話や行動をケース記録に記録し、会議で情報交換をし、職員間で共有して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合はユニットミーティングで話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から生活歴やサービス利用等の情報を提示して経過の把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の変化等は記録に残して、現状の把握に努めている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット毎に会議を開き課題等の話し合う機会を作り、意見を反映した介護計画が作成できるよう努めている	管理者、計画作成担当syを中心に、月1回カンファレンスを開催し、利用者や家族等の意見や要望を参考にして話し合い、介護計画を作成している。基本的には3ヶ月ごとにモニタリングを実施しているが、現状に即した見直しとはなっていない。	・モニタリング方法の検討
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	医療等の記録は個別に作成し情報の共有しながら実践に活かしている。日々の様子等の記録方法がまちまちで行動の記録が多く、記録における介護計画の見直しまでには至っていない		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われないよう心掛け、その時々生まれるニーズの把握に努めている		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の慰問やボランティアを取り入れたりして、暮らしを楽しんで頂けるよう取り組んでいる		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医より月一度の往診を受けて、適切な医療が受けられるよう連携している	本人、家族の希望するかかりつけ医や協力医療機関への受診の支援をしている。看護職を配置し、健康観察や医療機関との情報提供をしている他、協力医療機関の月1回の往診や歯科医による訪問診療があるなど、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職が連携をとり、異常がある場合早めの対応するよう心掛けている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	スムーズな治療ができるよう情報提供している。入院中も訪問し、医療機関からの情報が得られるよう地域連携室との関係作りに努めている		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を作成し、同意書を確保している。早い段階で家族の意向を確認して関係者全員で検討し方針を統一化している	重度化の指針を作成し、契約時に事業所ですることができることを家族に説明して、同意を得ている。重度化した場合は、家族、医師、関係者等で移設も含めて方針を共有して、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	緊急時のマニュアルを基に研修を行い、実践力の習得に努めている。事故防止委員会を立ち上げて再発防止できるよう努めている	ヒアリング、事故報告書に記録し、その都度日々のミーティングで対応策を話し合い、月1回の全体会議、ユニット会議で対応策を検討し、法人内の事故防止委員会でも話し合い、再発防止に努めている。緊急時のマニュアルを基に研修を行っているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民と一緒に年2回の避難訓練を行い、役割分担して協力体制を築いている	災害等対応マニュアルを作成し、年2回、地域住民の参加を得て、夜間想定を含めた避難訓練を実施している。運営推進会議で話し合い、避難場所での見守り等の役割分担をするなど、協力体制を築いている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した対応や、優しい声かけを心掛けている	独自のマニュアルに沿って、ミーティングで人格の尊重や声かけについて話し合っている。排泄の介助時や入浴時にはプライバシーを損ねない対応をしている。記録類は収納庫に保存している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動の先取りしないよう配慮しながら、自立支援できるよう働きかけている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを優先するよう心掛けて いるが、気がつく と職員側のペースに巻き込 んでいる傾向があるので十分気をつけてい きたいと思っている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔感のある身だしなみできるよう気をつけ ている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	野菜の皮むき・味ききなど、できる事は手 伝って頂いている。片付け等も職員と利用者 が協力して行っている	法人の栄養士によるバランスに配慮した献立 で、三食とも事業所で食事づくりをしいる。利 用者は職員と一緒に食材の買い物に行き、 野菜の下ごしらえ、味見、下膳、食器洗いな ど出来ることを職員と一緒にしている。利用者 の状況に合わせた形状に配慮し、誕生日会 は本人の希望のメニューを取り入れたり、お やつづくり(桜餅、ホットケーキ、お菓子)や外 食など、食事が楽しみなものになるように工夫 している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	栄養士が立てた栄養バランスのとれた献立 を活用し、食事量や水分量、あるいは排泄 状況など一目でわかる記録をつけている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医の指導を得ながら、個々の能力に合った口腔ケアを行っている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して状況に合わせ、さりげない声かけや誘導によりトイレで排泄できるよう取り組んでいる	利用者の半数は自立しており、職員は見守りをしている。必要な利用者は排泄チェック表で排泄パターンを把握し、さりげない声かけや誘導でトイレでの排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と情報交換しながら緩下剤を利用したり、飲食物の工夫しながら便秘しないよう予防に取り組んでいる		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	状況に応じた入浴できるよう柔軟な対応するよう心掛けている（一応入浴の曜日は決めているが変更可としている）	週3回、14時から16時の間に入浴が楽しめるように支援している。希望があれば毎日入浴も可能で、利用者の状況に応じて、シャワー浴、清拭、足浴などに対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく眠れるよう室温や寝具の調整している。本人の状況に応じ、休息の時間を作っている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実な服薬して体調維持できるよう努めている。変化については個別に医療のノートを作成して情報は詳細に記載し、情報の共有に努めている		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じた役割分担を行い、存在価値が見い出せる支援を心掛けている。体調確認しながら、月一度は必ず外出して気分転換を図っている	野菜づくり、貼り絵、折り紙、ぬり絵、洗濯物干し、食事の片づけ、下膳、食器洗い、ボーリングゲーム、輪投げ、計算ドリル、漢字ドリル、カルタ、テレビ視聴、DVD観賞、お笑い体操、傾聴ボランティアとの会話など、楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の支援として地域の散歩を取り入れている。また季節を感じていただけるよう外出レク(初詣・花見・海・イルミネーション見学)を企画運営している	一人ひとりの希望に沿って、散歩や毎日の食材の買い物に職員と一緒に出かけている。毎月1回の外出レクリエーション(初詣、季節の花見、天神祭、釣り、イルミネーション、八代の鶴の見学)など企画し、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解の元、個人でお金を所持しておられる場合もある		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば対応させて頂いている。手紙は直接本人にお渡ししている		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造平屋造りで、ユニット間は自由に行き来でき生活空間を広げている。共有の空間には畳を取り入れ居心地よく過ごせる場所の工夫をしている	木造平屋造りで、ユニット間は自由に行き来でき、天窓からの自然採光で明るい共用の空間には、季節の花を活け、利用者の作品を飾り、季節感を感じることができる。台所から調理の音や匂いがして、利用者が洗濯物を畳むなどの作業ができる畳のスペースや食卓、ソファを配置して、利用者同士が思い思いに団欒を楽しんだり、テレビを観るなど家庭的な空間づくりに努め、居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓、ソファ、畳のある場所で気の合った利用者同士が思い思いに過ごせる工夫をしている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が違和感なく過ごせるように、使い慣れた家具などを入れて安心できる工夫をしている	使い慣れた家具やベット、衣装ケース、テレビなどを持ち込み、好みの家族写真や習字など飾って、居心地よく生活できるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内では手摺を完備し、プレート等で場所の判断ができ安全に生活できるよう工夫している		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 秀東館 虹

作成日： 平成 26年 5 月 12日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につける研修が継続できていない	応急手当や初期対応の実践力を身につける	段階を追って研修項目を設定し、定期的な研修会を行う ①発熱時、転倒時の対応 ②食中毒を疑う時 ③熱中症 ④感染症	12ヶ月
2	39	行動や言葉の先取りをしてしまい、どのように過ごしたいかでなく、こう過ごしてほしいと職員側の希望に添った支援に満足感を得ている	できることがあり、本人が満足感を得られる自己決定できる場がある	グループホームの意義が理解できるよう再度研修を行う ゆっくりと利用者のペースに合わせられるよう職員間の連携を執り、個別に関われる体制作りをする	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。